

# 令和8年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

## 実施計画書

活動団体の本事業での活動テーマ

『バイオ炭活用と福祉NPOとの協働による  
農・福・環連携事業』

活動団体の活動地域：北海道美幌町ほか

活動団体名：(株)大雪を囲む会

中間支援主体名：(株)地域価値協創システム

# 参加団体の基本情報

## (1) 活動団体の基本情報

団体名	株式会社大雪を囲む会
活動地域	北海道網走郡美幌町
専門性・強み	
<p>○構成メンバーの有機農業者が広域に展開          ○着実に有機農産品販路を拡大してきており、新規有機農業者拡大について積極的な活動を実施</p>	

団体概要
<p>(株)大雪を囲む会は、本社を美幌町として富良野、小清水等の北海道大雪山を囲む自治体にある有機農業生産者が、安全でおいしい農作物を消費者の皆様を提供することにより、生産者と消費者の相互理解を深めることとともに、環境にやさしい農業を推進することを目的としている。</p>

## (2) 中間支援主体の基本情報

団体名	株式会社地域価値協創システム
活動地域	北海道網走郡美幌町を中心に周辺自治体（北見市、網走市等）
専門性・強み	
<p>○事業モデルを連鎖的に生み出すプラットフォーム整備をおこない、民間主導で広域で活動し、生産性の高いローカルSDGs事業を推進          ○社会福祉と環境保全活動の融合によるビジネスの創出</p>	

団体概要
<p>(株)地域価値協創システムは北海道オホーツク地域の8つのNPO法人が出資して設立した法人です。地域資源から新たな価値を創出するために、多様な主体と協働で取り組み、次世代の地域デザインを描き、実現するための担い手、働き手を育成しつつ、持続可能な地域づくりを目指すことを目的としている。</p>

# 活動団体と地域の紹介

## 活動団体の紹介

### ◎活動目的

本社を美幌町として富良野、小清水等の北海道大雪山を囲む自治体にある有機農業生産者が、安全でおいしい農作物を消費者の皆様を提供することにより、生産者と消費者の相互理解を深めるとともに、環境にやさしい農業の推進を目指している。

### ◎活動エリア

北海道網走郡美幌町を中心に大雪山を囲む上富良野町、小清水町等

### ◎特徴

有機農産物の生産、販売に共同で取り組み、有機農産物を社会にもっと広める地域活動や、目指す農業スタイルが、自然にやさしい環境保全型農業であることから、地域の環境・経済・社会の課題解決及びローカルSDGs実現に貢献すべく活動を開始している。

## 地域の紹介

北海道オホーツク地域は農林水産業が主力産業であり、地域経済はそこに大きく依存している。人口減少、高齢化の進捗に伴い、地域経済が停滞、縮小していく中、今後も農林水産業をしっかりと維持していくことは地域の大きな課題である。地域の1次産業では経営の大規模化が進み、現状、経営は比較的安定しているが、品質基準に合わず出荷できない生産物も多く発生しており、その処理方法もまだリサイクル化が確立されておらず、経済的なロスとなっている。今後ネイチャーポジティブ経済への移行が進むと予測される状況から、それに対応した課題策が求められている。

# 活動団体の目指す地域の姿

## ■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

### “ローカルSDGsを実現した地域社会”

人口規模が小さく、豊かな自然環境に恵まれているオホーツク地域の農業生産者から率先してSDGsを実現するために、様々な地域資源を持ち寄り、地域内外のつながりも活かす仕組みをつくり、有機農業を軸として、多様な人たちがSDGs理念を共有しつつ、主体的に行動し、地域課題を解決していく地域社会

## ■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

(株)大雪を囲む会は法人化以前から美幌町内で長年農業を営んでおり、しっかりとした活動基盤を有しており、日常の活動において、地元自治体、各種行政機関、金融機関、商工団体等との接点も多く、地元NPO法人とも交流があり、さまざまなネットワークが利用できる状況にある。このメンバーを中心にプラットフォームを形成し、有機農業のメリットを伝える。

## ■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

1. バイオ炭の製造・販売
  - ・融雪剤等として農地施用によるJ-クレジット活用
  - ・燃料や農業、工業用資材の開発・販売
2. 未出荷有機野菜の有効利用
  - ・規格外有機野菜使用発酵ジュース開発・販売
3. 地域循環共生圏づくり学習・観光事業
  - ・地元の学校と民間企業等の協働による探究学習の構築
  - ・教育旅行やサステナブルツアー商品造成及び提供

## ■ 地域の現状と課題

地域の基幹産業である農業において大規模化が進み、経営が安定した生産者は存在するものの、農地集約の背景には、人口減少や高齢化による後継者不足による廃業、離農がある。また規格に合わず、出荷されない生産物も多く発生しており、経済や環境におけるロスとなっている実態がある。さらに近年の異常気象で水害も多発し、「みどりの食料システム戦略」等においても地域温暖化防止に向けた緩和策、適応策が強く求められており、加えて化学肥料、農薬等の河川、海洋への流出も懸念されている。

# (参考) ローカルSDGs 事業の紹介

## 有機野菜発酵ジュース開発

### 【概要】

有機野菜（ニンジン）を使用した発酵ジュースの生産、販売を目指し、8月から有機野菜販売会場等で試飲会を開始し、秋から本格的な販売を開始した。



### 【段階】

試験販売の結果から、容器容量、パッケージなどを検討中

【活用している自然資本・地域資源】  
規格外野菜(ニンジン)



### 【事業により生じたor 生じそうな成果】

規格外で出荷できず廃棄されていた有機野菜を活用し、新たな商品として販売することで、野菜選別作業での障がい者雇用等、循環経済に寄与することが期待できる。

### 今後の展望

生産者や消費者以外の分野（社会福祉事業者や商工組織等）での協働主体の掘り起こしを進め、活動団体へのマッチングと開発協力事業者紹介をおこなう。

## 廃棄野菜利用融雪剤開発

### 【概要】

野菜廃棄物を炭化し、ビート工場から出る廃糖蜜を利用した融雪剤開発を北海道林産試験場の協力で製造し、機能効果試験を実施中。



### 【段階】

散布機械にあった融雪剤形状と融雪効果を試験中

【活用している自然資本・地域資源】  
廃棄野菜他未利用バイオマス資源



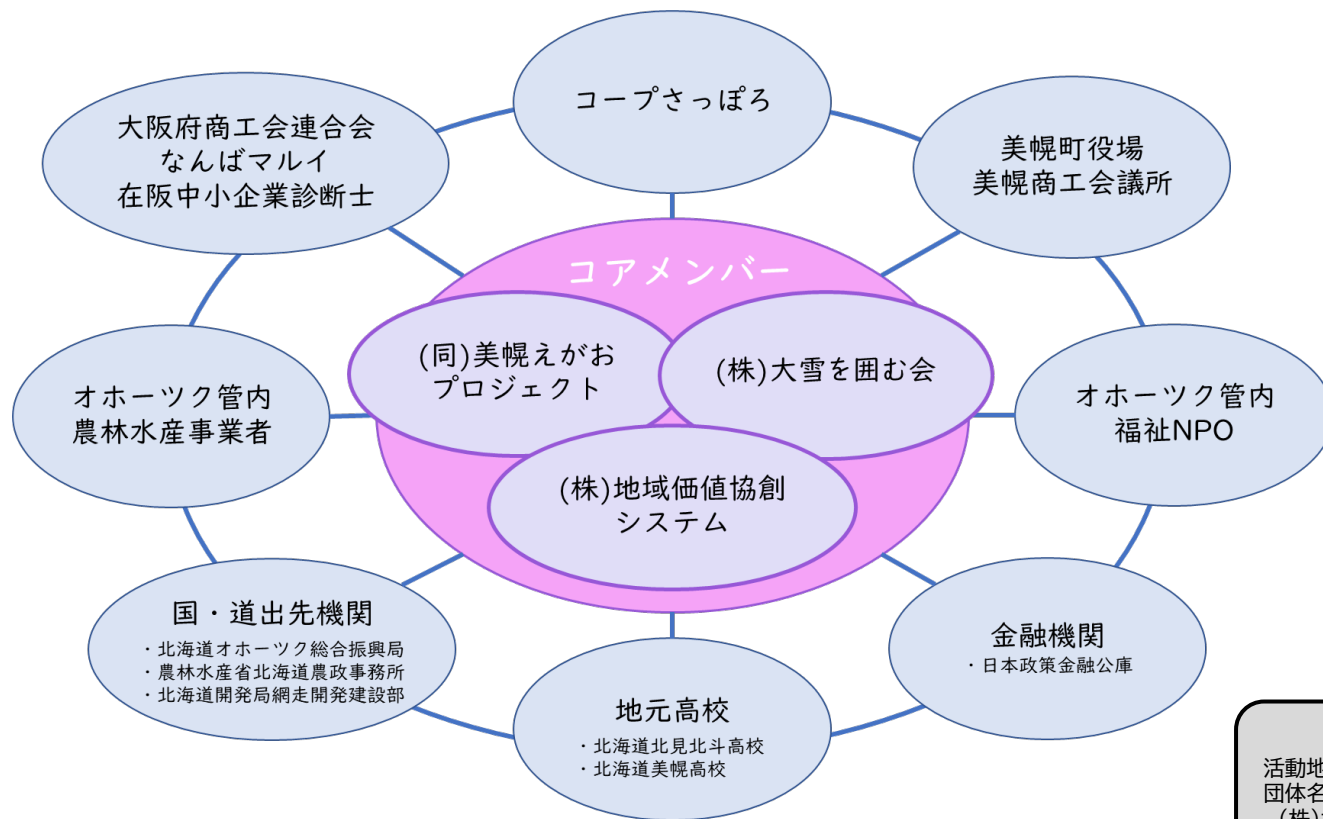
### 【事業により生じたor 生じそうな成果】

大量の農業余剰・廃棄物を有効活用することで、資源化し、現在かかっている処理コストを低減し、さらに農地投入することでJ-クレジットも利用でき、環境保全に貢献しつつ収入増が図れる。

### 今後の展望

今年度融雪剤の形状を決定し、次年度に圃場での試験を行い、融雪、土壌改良効果を確認し、炭化材料や廃糖蜜の確保方法など実際の運用システムの検討を行う予定。

# (参考) 現状の地域プラットフォーム



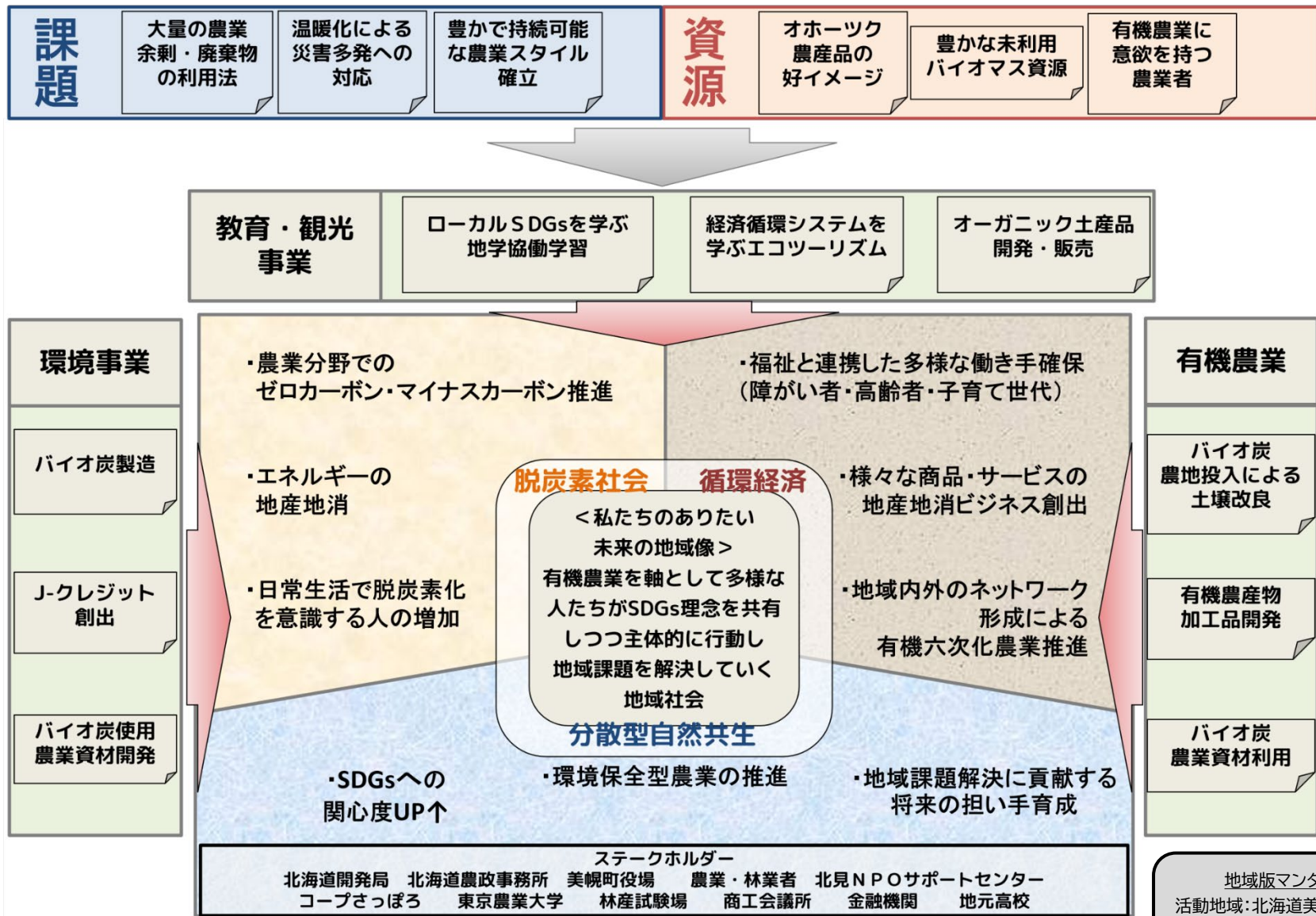
地域版マングラ  
活動地域:北海道美幌町他  
団体名:(株)大雪を囲む会、  
(株)地域価値協創システム  
作成日:2026年2月6日

## 地域プラットフォームの特徴

有機農業を広めるためには、生産物販路確保・拡大と二酸化炭素削減に取り組むメリットの明確化が重要である。そのためプラットフォームのメンバー構成や協力先として以下の2点の特徴が挙げられる。

- ①有機農産品消費拡大、ローカルSDGs推進への理解のある道外大消費地（関西）の商工団体、小売り事業者、コーディネート役の中小企業診断士が参画し、有機農業に取り組もうとする人たちに発展性を感じるられるメンバー構成になっている。
- ②地元の研究機関、大学、高校がバイオ炭を活用した農業分野での二酸化炭素削減に取り組み、今後のバイオ炭の農地投入効果確認のエビデンスへの信頼性が期待できる。

# (参考) 現時点のマングラ



地域版マングラ  
活動地域: 北海道美幌町他  
団体名: (株)大雪を囲む会、  
(株)地域価値協創システム  
作成日: 2026年2月6日

# 3カ年状態目標

## ■ 2027年度末の状態目標

- 福祉NPOとの協働事業実施  
農産物・加工品共同販売システムの充実
- 地域共生圏づくり構想具現化  
有機農業を軸としたゼロカーボンファーマーミング推進システム運用
- 支援ネットワーク拡大  
道内外の支援者・支援企業のネットワーク化

## ■ 2026年度末の状態目標

- 福祉NPOとの協働事業実施  
農産物・加工品共同販売システムの完成
- 地域共生圏づくり構想具現化  
有機農業を軸としたゼロカーボンファーマーミング推進システム構築
- 支援ネットワーク拡大  
道内外の支援者・支援企業の拡大

## ■ 2025年度末の成果と振り返り

- 福祉NPOとの協働事業実施  
農産物・加工品共同販売として、大阪なんばマルイでSDGsを経営に取り入れるメンバーで販売会を実施。
- 地域共生圏づくり構想具現化  
有機農業を軸としたゼロカーボンファーマーミング推進をバイオ炭の融雪材利用で実現を目指す。
- 支援ネットワーク構築  
道内外の支援者・支援企業の組織化

# 今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。(最低3つ記載ください。)

	優先する アクションサイクル	いつまでに実現するか	実現のために何をするか	実現のために必要なこと (ヒト/モノ/カネ/仕組み/ 機能等々)
①	仲間を探す	NPO法人北海道オーガニック推進協会との連携で、次年度に全道域での活動を目指す	既存メンバーの意識、意欲向上策の実施 有機農業拡大拠点の確保	将来ビジョンの共有 期待度・注目度を意識できる場の設定 有機推進セミナー等の開催
②	体制を整える	初期メンバーが揃い、次年度中に、役割の明確化と対外業務要員育成	有機農産品の安定的販路確保・定着化 有機農業推進への理解者・協力者確保	大都市圏消費者へのPR (今年度に続き2回目) ビジョンを共有できる連携事業者の発掘選定
③	事業を生み出す	次年度中バイオ炭品質確認  加工品開発は今年度開発商品の改良及び新加工商品開発継続	バイオ炭品質の確認 バイオ炭農地投入の有機農業への効果確認 有機農産品利用加工品開発のメンバー増	大学、各種研究機関との連携 慣行農業との差別化可能な加工品の情報収集及び試作、試験販売による市場調査
④				

# 中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

## ■ 中間支援主体の1年間の支援目標

- 福祉NPOとの協働事業実施  
農産物・加工品共同販売システム参加メンバーの強化
- 地域共生圏づくり構想具現化  
有機農業を軸としたゼロカーボンファーム推進システムの告知活動強化
- 支援ネットワーク拡大  
支援者・支援企業の拡大と道内外での拠点づくり

## ■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	有機農法や農業における地球温暖化対策に関心を持っている生産者や消費者は一定数いるが、バイオ炭等を含めて情報が十分に伝わっていない	有機農法やカーボンファームに取り組む意識を持つ生産者への取り組みやすい手法提言（バイオ炭の融雪材利用で作業を増やさず有機農業に取り組む方法等の説明セミナーやイベント開催支援）
②	地域の多様な人材を受け止める社会福祉事業者において、新しい事業が生み出されにくい	社会福祉事業者の事業力強化への支援活動をおこない、資金の地域内循環体制を推進する。
③	地域において、環境、社会、経済の課題の同時解決を支援する（協働を促す）体制が整っていない	オホーツク地域の関係者を中心に地域外のメンバーも加えたプラットフォームの確立を図り、温暖化対策モデル地域を目指す。

# 中間支援主体のありたい姿

## ■ 中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

### ○ 中間支援主体としての目指す姿

活動主体の長所を活かし、足りない分を補完する方策を提案できる能力、意欲を持ち続けることができる。

### ○ 必要な中間支援機能（獲得目標）

- ① 戦略ビジョンの策定のための話し合い、学びの場の提供
- ② 域内外の関係者や専門家とのつながり創出、強化

### ○ 具体的なアクション

有機農業への関心への高めるために、有機農業拡大が環境保全、循環経済共生圏づくりへ寄与し、地元にとって利点が多いことをわかりやすく伝える。

社会福祉との連携事業に強みをもつので、十分に生かす方法、展開を検討する。

北海道外での有機農業関連商品販売推進のため、協力事業者間の関係性強化に努める。

## ■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

### 【ローカルSDGsを実現した地域社会】

人口規模が小さく、豊かな自然環境に恵まれているオホーツク地域の農業生産者から率先してSDGsを実現するために、様々な地域資源を持ち寄り、地域内外のつながりも活かす仕組みをつくり、有機農業を軸として、多様な人たちがSDGs理念を共有しつつ、主体的に行動し、地域課題を解決していく地域社会づくりに貢献する。

# 活動・支援スケジュール【R8当初計画】

## ■スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】			<p>持続可能な体制構築に向けた有機農業者、希望者への指導・相談</p> <p>■ステークホルダーミーティング</p> <p>■販路開拓先訪問（大阪）</p>									
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動団体】			★有機農産物販売イベント	★有機農産物販売イベント		★有機農産物販売イベント					●有機野菜クッキング教室（2カ所）	
中間支援主体の支援・取組計画			<p>持続可能な体制構築に向けたネットワーク形成・ステークホルダー間調整</p> <p>活動団体が実施する研修会やイベント等の開催支援</p> <p>バイオ炭農地施用に関わる試験・農福環連携マニュアル作成</p>									

備考（補足説明など必要な場合は記載）